

## 世界統一3月13日アクトデー記念 世界初の試み

### アジア第一・第三ゾーン ローターアクト研修会 『感動と共に幕を閉じる』

1992年3月14日(土)、15日(日)2日間 松山市奥道後ホテル

第2670地区社会奉仕委員長

菊澤建明(伊予RC)

若葉香る春風と共に、日本31地区RA委員長、委員長ノミニー、RA地区代表、代表ノミニー及び役員、地区内ローターアクト・クラブ未提唱RC社会奉仕委員長、青少年奉仕委員長、第2670地区来賓並びにRA委員、計513名で奥道後ホテルを会場として開幕。

会場内は世界初の試みとあって、RI本部奉仕プログラム担当課長レベッカ・D・フリッツ女史、RIローターアクト委員伊藤茂氏(相模原中RC)、韓国パストガバナー方炫氏、インド地区代表と正に国際的な研修会様相を醸し出している。井内ガバナー、池田代表の挨拶に始まりオープニング・セレモニーは厳かにプログラムに従って進行し、休む時間も惜しんで直ちに各部門別分科会に入る。熱気漲る討論が各分科会場をゆるがす。

正にバス・セッションさながら1分を惜しんで討論、議論を進めて行く姿は、さすが各地区を代表する委員長、代表ならではと感じた。専門的知識、体験、すべてを網羅しながら理想とするローターアクト像を求める姿は、この研修会の目的そのものであった。

夜のプログラムのパーティタイムもアクト・メンバーはフォーマル・スタイルに一変し、華やかなものになった。

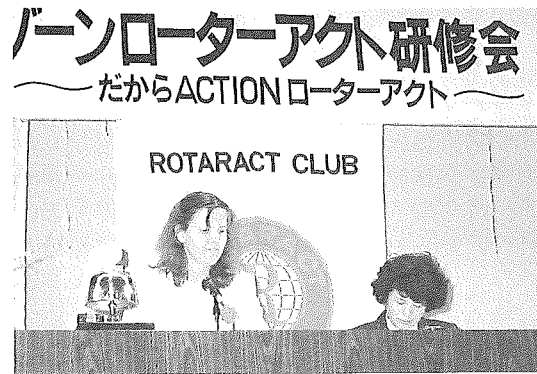
特筆すべきはアトラクションでプロの踊り手、阿波踊りが身ぶり手振りも軽やかに舞台上に現れ、踊りの渦が会場内を埋めつくす。

プロの踊り手とばかり思っていた人を近くで見ると、驚いたことに井内ガバナーであった。さすが徳島生まれの徳島育ち、踊りを身体で覚えているようだ。この研修会を盛り上げ、力づけるためのガバナーの温かい心入れを受けとめ、私も踊りの渦に入っていた。

アクト数十人、揃いのハッピー姿とガバナーの気の合った踊りは、今後地区での理想の姿を表現しているかのように見えた。



井内ガバナー挨拶



レベッカ女史と通訳の方

二日目は朝から雨。しかし会場は昨日に引き続き、更に昨日の議題を深く掘り下げての討議に入った。

各地区委員長の体験と研究、そのご苦勞は大変なものであり真剣そのものであり、ともに刺激を受け合い満足いくものであった。ただ願わくば、もっと十分な時間が欲しいと誰もが思った事であろう。

午後12時閉会式となり、井内ガバナーの講評、RA地区実行委員長・永井東洋君の閉会宣言。池田代表の点鐘により二日目の研修会の幕を閉じた。

今回誠に残念に思った事は、ローターアクト未提唱クラブの社会奉仕、青少年奉仕委員長、いずれかの方にご出席を願ひ、ローターアクトについて研究をして頂きたいとの願ひが26クラブからの参加通知をいただきながら、多くのキャンセルに出会った事は私の不徳のいたす所でした。しかし8名の出席者とパストガバナーを交えて熱心に研究して頂いた事は地区にとって、クラブにとって有益であったと思います。

今回、この研修会を開催するにあたり、RAC提唱クラブ様より多大のご支援、ご援助を賜りました事をアクトと共に深く深く感謝申し上げます。

そして研修会で初めて実現した梶浦、谷村、牟禮、松野パストガバナーのご出席は力強くアクトのためロータリークラブ会員全てに大変な刺激を与え、レベッカ・D・フリッツ女史、伊藤茂先生、方炫パストガバナーのご活躍は目を見張るものがあり、さすがと感心致しました。

皆様本当に有難うございました。



部門別に分かれて話し合い



プロ並みの井内ガバナーの阿波踊り

国際ロータリー部長

## 国際親善へ 相互協力を

愛媛新聞訪れ歓談



国際理解について語るレベッカさん  
愛媛新聞社

十四、十五の両日、松山市で開催される「アジア第一・第三ゾーンローターアクト研修会」に出席するため、国際ロータリーの奉仕プログラム部長、レベッカ・フリッツさんが米國から

来松。十三日、友人のニル・ス・アンダース・エリクソンさんと共に愛媛新聞社を訪れ、同社の松下功会長らと、国際理解推進などについて歓談した。

レベッカさんは「世界平和のため、相互に協力しよう」と呼び掛けた。同席の県内ロータリー

アンらと意見交換。「日本は初めてだが、世界的に見て日本のロータリークラブの貢献も素晴らしい」と話した。また、今一番の重要課題となっている地球環境保全の活動についても質問。松下会長が「愛媛でも、ゴミのリサイクルやせっけん使用など、環境保全を頭に入れた活動をしている」とこたえ、レベッカさんは「この後、松山市内などを観光し

(愛媛新聞 1992年3月14日付け)